

(第3種郵便物認可)

ライフル競技 2人が全国へ

宍粟・千種高

宍粟市千種町の千種高校ライフル射撃部に所属する3年秦陽乃さん(18)と2年猶原宏海さん(16)が、8月8日に広島県である全国高校ライフル射撃競技選手権大会のチームライフル競技に出場する。5月の県高校総体の女子で秦さんは1位、猶原さんは4位に輝き、全国への切符をつかんだ。「一点集中」をモットーに、積み重ねた努力の成果を大舞台で示す。(村上晃宏)

3年 秦陽乃さん



スランプ克服、県総体で優勝

高校最後の全国大会に向けて意気込む秦陽乃さん(18)は、千種高校

2年 猶原宏海さん



体幹鍛え急成長自己新狙う

全国大会で自己ベスト更新を狙う猶原宏海さん

チームライフルは光線が出る銃で、10メートル先にある直径4・5センチの的を狙う。0・10・9点まで0・1点ずつ設定され、45分の制限時間内に60発を撃って合計得点を競う。

秦さんは昨年11月の近畿大会で3位に入り、全国大会への出場権を獲得。しかし、コロナ禍のために中止され、今年4月に三重県であった代替大会では23人中17位に終わった。

入賞した。秦さんは「4月の代替大会は全国出場という結果に満足して集中できていなかった。もう一度チャンスが巡ってきてよかった。全力を出す」と意気込む。猶原さんは「撃つまでに時間をかけすぎる悪い癖を修正し、自己ベストの620・9点を更新したい」と力を込めた。

秦さんはスランプに陥り、得点が伸びない日々が続いた。県総体の前日、昨年度まで副顧問だった篠秦介教諭から「深呼吸が大事」と助言を受け、呼吸を整えて射撃に入ることを意識した。すると「悪いイメージを払拭でき、吹っ切れた」といい、621・7点の高得点で優勝した。猶原さんは高校入学後にライフル射撃を始めた。初めは銃が重くて狙いが定まらず、成績は伸び悩んだが、昨年から急成長。構える際の姿勢を重視し、体幹トレーニングなどを重ねた結果、600点台が出るようになった。県総体でも605・1点を記録し、4位に